

日本教育学会機関誌編集委員会改革案についてのパブリックコメント(回答) (2024年2月13日～2月26日)

タイムスタンプ	1. 【提案1（投稿締切4回化）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	2. 【提案2（再々投稿の廃止、再審査の迅速化）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	3. 【提案3（副委員長および委員の増員）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	4. 上記の【提案1～3】以外の点で、機関誌についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	5. あなたは現在、以下のうちのどれに当てはまりますか。当てはまるもの1つを選んでください。
2/13/2024 9:57:56	大賛成です。				大学院生
2/13/2024 9:58:31	賛同します	「そのまま採択」はないのですか？	賛同します		研究職（任期あり）
2/13/2024 10:04:16	賛成	賛成	賛成		研究職（任期なし）
2/13/2024 10:04:27					研究職（任期なし）
2/13/2024 10:16:38	理にかなった変更のように思います。投稿と査読を対応させることにより、編集委員の交替等も円滑になるのではないかと思います。	理にかなった変更のように思います。早く結果が出ることは投稿者にとっても良いことだと思います。	委員が増員し、学会としての査読にかけることのできる力が向上することは良いことだと思います。	お世話になっております。今後とも何卒よろしく願っています。	研究職（任期なし）
2/13/2024 10:17:49	締め切りが年6回存在する制度は他の雑誌と比較して多かったと思うので、投稿者側にとっては減らすことにそこまでの問題・不満感はないと思う。	「通常の投稿締切や編集委員会とは別の体制」が具体的にどのようなものか分からない。		改革案の説明に暗に示されていると思うが、今回提示いただいた改革案が採択率（採択率向上という課題）にどのように関係するのか、という点についてどのような見通しをお持ちなのか、何かの機会にうかがいたい。締切・査読と刊行号を対応させることで、4半期という限定された期間のサイクルで迅速に回して行けるのであれば良いと思うし、それは長期的には採択率に影響すると思うが、他方で「不採択」が増加することも有り得ると思う。	研究職（任期あり）
2/13/2024 10:49:09	4回で十分だと思いますので御提案に賛成です。	御提案に賛成です。	みなさんたいへん忙しいなかを編集作業のために御奮闘くださり、心より御礼申し上げます。みなさまの御負担を少しでも軽減するためにも、御提案に賛成したいと思います。「維持可能性」の語がすばらしいですね。Sustainableの語は宮本憲一、都留重人によれば、この語が正しいはずで。	本田由紀新編集委員長の就任に大いに期待をしています。さまざまな社会問題や運動に適確にコメントをされ、わたしの周囲はもちろん、多くの人びとが多大な励ましと意欲を頂戴しています。そういうかたが学会の要職に就かれ、編集実務の中心を担われることは、（御本人はお忙しくなられて大変でしょうが）学問の自由が脅かされている今、社会に大きな影響を与えたいと思います。同時に、学会全体、そして教育学全体に良い効果をもたらすでしょう。わたしは同世代の者で、面識はありませんが、いつも尊敬の思いでご活躍を見ています。今後ともよろしくご指導ください。	研究職（任期なし）
2/13/2024 10:52:12	賛成です。	賛成です。	賛成です。	丁寧に査読やコメントをしてくださる編集委員・査読の先生方に感謝しております。質の維持のためにも、本改革に賛成いたします。	大学院生
2/13/2024 10:58:32	賛成です。年4回でも十分に多く、他学会誌と比べて投稿しやすい点は変わりません。	賛成です。	賛成です。	全体として賛成です。投稿する側として、特段不利益はないように思えます。	研究職（任期なし）
2/13/2024 11:12:59	賛成します。年4回でも十分な頻度と考えます。	賛成します。再審査の迅速化は執筆者のモチベーションの維持に寄与すると考えます。	賛成します。査読の迅速化につながるのであれば、よろしいかと存じます。	英語の冊子の大きさを日本語と同じに出来ないでしょうか。あのサイズはゆっくりと読むには大きいです。実際、国内外の雑誌でA4に近い大きさの学術雑誌は少数かと。	研究職（任期なし）
2/13/2024 11:25:03		「投稿後の査読結果を「再審査」または「不採択」のいずれかとする」とありますが、「採択」がないのはなぜでしょうか？			研究職（任期なし）

タイムスタンプ	1. 【提案1（投稿締切4回化）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	2. 【提案2（再々投稿の廃止、再審査の迅速化）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	3. 【提案3（副委員長および委員の増員）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	4. 上記の【提案1～3】以外の点で、機関誌についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	5. あなたは現在、以下のうちのどれに当てはまりますか。当てはまるもの1つを選んでください。
2/13/2024 11:32:17				<p>投稿要領（5）で、「1ページ22字×45行、上下余白各15mm、左右余白各65mmとする。上記の枚数には、本文の他、タイトル、注記、図表、参考文献等を含む。注記、参考文献は本文と同じ文字サイズとすること。図表等の文字数は、本誌（B5判）に掲載された場合のスペースに相当する文字数としてカウントする。」とありますが、まず、左右余白各65mmで文書編集をする場合に、細長い文章を何ページにもわたって作成する形となり、非常にやりにくいです。さらに図表等の挿入を「1ページ22字」の幅で行う場合と、この表の幅を1ページ内左右2段組の2段にわたる場合を想定して挿入する場合とでは、図表の文字数のカウントの仕方が変わるなど、投稿時に自分自身がカウントした文字数のままで受理した後の査読者が判断してくれるのか不安になります。そのため、投稿要領違反で受理されないのではないか、などと考えなくてはならないです。掲載を想定した形式の指定は、掲載決定後に行っても差し支えないのであれば、投稿段階では投稿者が投稿要領違反になっていないことを自分自身で確認しやすいように、例えば、論文量を現在の「原稿枚数」ではなく、「文字数」に変更する、図表の文字数カウントの方法をいくつか例示するなどの方法をとっていただけるとわかりやすいかと思いました。また、論文作成のしやすさからは、「1ページ22字×45行、上下余白各15mm、左右余白各65mm」も取り外していただきたいです。</p>	研究職（任期なし）
2/13/2024 11:38:58	締切と刊行号とが対応するのであれば、よいと思います。	<p>「提案2」だけを拝見すると、査読結果の「採択」「条件付き採択」もなくなるように読めますが、その理解でよいでしょうか。（投稿後の査読結果は「採択」「条件付き採択」「再審査」「不採択」、ではなく、「再審査」または「不採択」のいずれかとする、ということでしょうか。） このように変更した場合でも、「再審査」を経て不採択になる、次の投稿でも採択に至らない、ということが生じ、査読結果を伺うまでに長い期間がかかるということはあるのかと思いました。 そのこと自体は論文執筆の力量に関わるところなので、今回の改革とは別で考える必要があるのかとも思います。</p>	およそ倍の委員数になることで、各編集委員の負担軽減が見込める一報で、人選に課題が生じないか、若干気にかかりました。	改革提案の内容は、実施するとしたら、いつごろになる予定でしょうか。	研究職（任期なし）
2/13/2024 11:42:47	賛成です。年4回で十分だと思います。	とても賛成です。何度もやりとりをすることは実質的な論文指導のようになり、「投稿論文」（完成されたものの投稿）の趣旨にっていないのではないかと感じていました（投稿する方としてはありがたいですが、それは編集委員会の行う範囲を超えていると思います）。	賛成です。多様な分野を含んでいる学会なので必要かと思っています。		研究職（任期なし）

タイムスタンプ	1. 【提案1（投稿締切4回化）】についてご意見が おありでしたら、以下の欄に記入してください。	2. 【提案2（再々投稿の廃止、再審査の迅速化）】について ご意見がございましたら、以下の欄に記入してください。	3. 【提案3（副委員長および委員の増員）】についてご意見 がございましたら、以下の欄に記入してください。	4. 上記の【提案1～3】以外の点で、機関誌についてご意見がございましたら、以下の欄 に記入してください。	5. あなたは現在、以下のうち のどれに当てはまりますか、当 てはまるもの1つを選んでくださ い。
2/13/2024 12:47:28	とてもよい改革だと思います。	とてもよい改革だと思います。リジェクトという結果が明確かつ迅速に示されることによって、投稿者は、他誌への投稿や大学紀要投稿、あるいは長期的な書き直しに回すなど、迅速に意志決定ができるからです。	人員を2倍ということで驚きましたが、それが改革に必要であれば仕方ないと思います。編集委員会が空転しないことを祈ります。	『教育学研究』オープンアクセス誌化の検討を至急行っていただきたいです。国レベルでは、公的資金の援助を受けた研究はオープンアクセス化を原則とするという方針を定め、2025年度の公的資金援助新規採択分から上記方針を適用するという議論が進んでおります。(2023年6月9日閣議決定「統合イノベーション戦略2023」、2023年10月30日 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議「公的資金による学術論文等のオープンアクセスに向けた基本的な考え方」、など。)『教育学研究』をオープンアクセス化しなければ、投稿先として選択してもらえなくなる可能性があります。論文を即時ネット公開(エンバーゴ期間を0)にすればオープンアクセス誌(ゴールド・オープンアクセス誌)として認定されるわけではありません。投稿者が自分で公開する(グリーン・オープンアクセス)という選択肢もありますが、著作権処理が面倒になり、投稿先として敬遠される可能性、事務負担が煩雑になる可能性があります。急ぎご検討いただきたく思います。	研究職（任期なし）
2/13/2024 13:22:23	賛同いたします	賛同いたします	賛同いたします	提案1～3の全てに賛同します。 なお、この2年ほど、『教育学研究』は査読論文の掲載率向上を掲げていましたが、結果、特定の大学院の掲載者が異様に多くなる、アンバランスな号も複数回見受けられました。そもそも、査読通過率向上のPRが特定の大学院にしか伝わらず、結果非常に内輪向けの「通過率向上」になってしまったのではないかと危惧しております。教育的査読も非常に賛同するところですが、地方の研究者・大学院生に不利にならないような公明正大な査読方針の告知を望みたく存じます。	研究職（任期あり）
2/13/2024 14:04:41	投稿締切の回数が減少することで不満が出るかもしれないが、査読を丁寧に行うためであれば、やむを得ないと考えるものである。	「再審査の迅速化」は基本的に賛成である。ただ「再々投稿の廃止」の廃止については、それによってどのような影響が出るのか、よくわからないので、①「廃止」の意味、②それが査読と原稿の修正や再投稿の作業に及ぼす影響についての詳しい説明が欲しい。	教育学研究の多様化・細分化に伴い、少数の編集委員では、以前の投稿論文の査読に困難が感じられる場面が増えてきていると想像される。したがって、副編集長及び委員の増員は必要な措置と考えられる。ただ編集委員の人数が増大すると、編集委員会の運営が楽になる部分もあると同時に、多様な意見が編集委員会内で出て、調整が大変になる可能性については、念頭に置いておいた方がよいかもしれない。	『教育学研究』は水準の高い学術誌だとされているが、一方で投稿してもなかなか掲載されないという気持ちを持っている学科員も多いと思われる。今回の改革案は、査読を丁寧に行い、掲載される論文を増やしていくための措置だと思う。その意味では今回の改革案の方向性を支持したい。しかし今回の改正案を実施した場合に、どのような影響が出るかどうかについての丁寧な検討が必要だと思う。	元大学教員
2/13/2024 14:23:45	投稿機会が年4回に減ってしまうことは、投稿者からすると遺憾である。第一に、確かに、大半の学会は年1-2回投稿であり、4回になったとしても大半の学会よりは投稿機会は多い。しかし、年4回投稿できる雑誌はすでにあっても（例：『社会学評論』）、6回投稿できるという雑誌の他にない魅力ではなからうか。私はこの投稿頻度の多さを魅力に感じ入会した。この頻度が減ることを残念に思う。第二に、編集委員の会議の頻度が多く、大変であるという事情はあるのであろうが、4回になった結果1回分の編集会議に出される論文の数がむしろ増えることで、（編集委員の数が増えたとして）査読者の割り当てや査読対応が雑になることも予想される。	これについては異論がなく、むしろ査読長期化を防ぐ点で、投稿者からすると大いに歓迎したい提案である。	これについては異論がなく、むしろ投稿論文の趣旨やテーマ、専門性に見合った査読がなされる可能性が高くなることから、投稿者からすると大いに歓迎したい提案である。	提案2に関して、そもそもこの提案をみる前まで、『教育学研究』がどのような査読プロセスを経るのか私は知らなかった。学会によっては、論文投稿後の査読プロセスを非常に細かくHP上で公開している（例：日本保健医療学会の「査読ガイドライン」「投稿受付から掲載までの手順」）。こうしたものが日本教育学会にもあるとよいと考える。	大学院生
2/13/2024 14:51:25	特になし	迅速化に賛成	増員賛成	特になし	研究職（任期あり）

タイムスタンプ	1. 【提案1（投稿締め切り4回）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	2. 【提案2（再々投稿の廃止、再審査の迅速化）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	3. 【提案3（副委員長および委員の増員）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	4. 上記の【提案1～3】以外の点で、機関誌についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	5. あなたは現在、以下のうちのどれに当てはまりますか。当てはまるもの1つを選んでください。
2/13/2024 15:28:21	賛成です。投稿締め切りは年4回確保されていけば、十分に他学会との重複を避けた投稿スケジュールを計画することが可能であると考えます。	賛成です。『教育学研究』への投稿を検討するにあたって、掲載号や再査読がいつ完了するのかを予測し難いことが懸念事項でしたので、一投稿者として大変ありがたい提案です。		上記の提案はいずれも投稿者にとって大変有意義なものであると考えます。	大学院生
2/13/2024 16:53:09	賛成します。	賛成します。	賛成します。	特にありません。	研究職（任期なし）
2/13/2024 16:57:33	賛同します。持続可能な査読体制が望ましいです。	賛同します。シンプルな手続きが望ましいです。	賛同します。この学会規模・投稿本数で現状の編集委員数は極端に少なすぎると思います。	例えば、日本文化人類学会が公開するような実効的な「査読過程に関するガイドライン」を策定・公開いただきたいです。	研究職（任期なし）
2/13/2024 17:10:35	賛成です。	賛成です。	賛成です。	教育学研究のクライテリアを国際基準に合わせていただけると、投稿者としては意義を感じられます。せっかく投稿した論文が国際的には価値のないものだと思えるのはとても残念です。また、国際的にも認識されるよう、オープンアクセス化も検討いただけると幸いです。一つの例にすぎませんが、北欧の研究者が参考にする投稿先のジャーナルの評価一覧にて、ESJがどういった評価になっているかを添付いたします。 https://kanalregister.hkdir.no/publiseringkanaler/KanalTidsskriftInfo.action?id=504235 また、researchmapにて教育学研究の学術論文のデータの取り込みがcinii経由でうまくいかないがありました。	研究職（任期あり）
2/13/2024 17:23:12				たまにある、査読者を指名して論文投稿するシステムを廃止してほしい。もともと友達が多くて、コミュ力高い人が有利すぎる	研究職（任期なし）
2/13/2024 18:31:19	よいと思いますが締切後はかなり忙しさが増すと思います。	よいと思います。だめなものはだめです。指導機能を学会誌が担保すべきではありません。	組織の特性上、働かなくなる層と積極的に働く層が一定割合で形成されます。大所帯化は目配りが大変かもしれません。	掲載論文が多い際、横に引き延ばしたフォントはお避けいただきたいです。読みづらいです。	研究職（任期なし）
2/13/2024 19:23:04				現在ミレニアム賞問題4連覇が事実上決まったが東京大学院入試で落とされた子がいる ガロア事件。また東京大学だけの楽園を作り 日本の民衆を虐げていたと報告を受けている。その他数々の不祥事にも関わらず東京大学特に東京大学教育系が責任つまり250年間の追放となっておらず 世界の民衆が激怒していると報告を受けている。機関誌にあっても 東京大学と言う危険分子を擁護する旨の記事 を載せているようだが大変遺憾である。なお近似精度が任意精度である理論によると東京大学教育系を追放しないと人類滅亡となることが予測されている。	フリー
2/13/2024 20:09:16	賛成。 実際には、年1回の学会がむしろ多いわけですから、機関誌の発行に合わせて投稿も4回で十分であると考えます。掲載するのに、1年費やしてしまうのは、年1回の学会では当然のことだと考えますが、その反面、審査のための保留期間をしまうことは、他の学会には二重投稿になるということで投稿できなくしてまいりますから、提案2にもかかわりますが、よくないと思いますので、審査の迅速化は重要だと考えます。	提案1でも触れましたように、審査や再審査の迅速化は二重投稿にもなりかねないので必要です。よって、賛成です。	賛成です。再審査の迅速化には、必要です。	この学会は、専門分野に特化しない、日本を代表する教育学の総合学会ですから、安易に専門学会よりも容易に掲載されるようになってしまうのも問題で残念だと思います。専門学会と同等以上の質を保持し、威厳は保ってもらいたいが、異常に掲載されにくいのも困ります。専門分野の研究が他の専門分野とコラボ・交流する場であってほしいです。教育学は、総合的な知を特徴とするところにあるべきだし、専門分化（蝸壺化）されてはならないと考えるからです。	研究職（任期なし）

タイムスタンプ	1. 【提案1（投稿締め切り4回）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	2. 【提案2（再々投稿の廃止、再審査の迅速化）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	3. 【提案3（副委員長および委員の増員）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	4. 上記の【提案1～3】以外の点で、機関誌についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	5. あなたは現在、以下のうちのどれに当てはまりますか。当てはまるもの1つを選んでください。
2/13/2024 20:43:15	適切だと思う。あわせて刊行記載日から1か月以内の「発送」を希望します。12月号は1月31日までに発送を望むが、年末年始で難しい気もする。なお某市勤務先は連休もあり2月13日（火）に到着。	委員の負担が減るならよいと思う。「条件付き採択」も廃止でしょうか（提案2からはあるようにもないようにも読めるため）。	副委員長の増員はきっと必要だと思う（業務はわからない）。一般の委員の水準は維持できるのか。現状で43歳が最年少だとすれば、38歳から42歳あたりも査読委員になるのか。5年間に査読論文や7・8年間に単著（『教育学研究』書評対象）、『教育学研究』掲載論文が2つ以上（依頼を除く）がある人を選ぶなど、信頼できる基準が欲しい（日本語・英語雑誌ともに）。日本を対象にする教育～～学研究者は査読にたくさん必要か。方法が同じ外国研究者の委員や方法が異なる他分野の委員、および投稿者が指名した・専門に近い外部査読者が読めばよいと思う。夏前頃までに2～4名程、外国研究（外国語論文・資料等も使用する）をしているきちんとした教育学研究者を増員するのが現実的ではないか（そこから任期2年）。同じ科研費・共著で書く人たちが同時期に委員にいるのは偏っていると思うが、よいのかどうか。学会集報に、投稿が減少傾向にあると小国委員長が語っているが。	10年程以上前の『教育学研究』は、対象国が異なる研究者が書評を書いていた記憶があるが、それもなくなった印象です（最新号はあった）。ここ数年、2年に1本ほど学術的に疑問を持つ書評（ただの紹介など）が掲載される印象。財団法人史学会は書評も査読があるが、ここまででなくても若干の確認はあってもよいのか（副委員長等の負担が増えそう）。かつて、辻智子氏も登壇した『教育学研究』編集改革zoom企画で荻原克男氏がコメントしたように、3名の査読コメントは（委員長・副委員長・委員会で削除すべき部分を検討して?）、そのまま投稿者に送れば、負担が減るし、「丁寧な査読で詳細なコメント」であると思う。希望する投稿者にはそのようにしてほしい。書評・図書紹介たまに形式が整っていない（題名が一重括弧の場合など。正副委員長・事務局が忙しいか）。最新号2月6日発送だと思いましたが、出版社には2月5日に届いた?（事務局が労力を使ったとすれば大変だと思いました）。審査する側の倫理・選定基準・審査規定が明記されることで、信頼が得られるのではないか。たとえば本田由紀先生が委員長の間に東京大学教育社会学の人の論文が多数掲載されると、違和感を持ってしまうので、なんらかの審査する側の規定を公開してほしい。指導教員が審査に関することはないだろうが、指導教員と利害関係がある人が査読するのは公平なのか。人数が増えるならば、外部査読者だけでなく、利害関係のない編集委員も1名（2名?）指名し、選定の参考にしてほしい気もする。地方区理事数名を査読委員に入れると、査読委員の質は保証されるような気もする。委員の人数が増え過ぎれば、いつか委員や論文の水準が下がる気がするので、査読委員をコントロールする規定が必要かと思う（科研費などは業績入力をしていると思う）。	研究職（任期なし）
2/14/2024 8:16:27	賛同いたします	賛同いたします	賛成です	とくにありません	研究職（任期なし）
2/14/2024 11:20:24	異論ございません。それでも多いような気がします。	査読者の負担軽減は、査読の質の向上につながると考えます。	2に同じ。	特にございません。	研究職（任期なし）
2/14/2024 12:20:14	いつもお世話になっております。4回でいいと思います。投稿者としては、6回か4回かはそんなに問題にならないと思います。むしろ、これまでがやりすぎだったと感じます。	迅速化や査読者の負担を減らすとはいえ、投稿は2回までとするのは、問題があると思います。査読結果について、再投稿以降は、詳細な記述を抑えて、チェックボックスなどの工夫で簡素なものにするなどはどうでしょうか？	分野が多岐にわたるため、いいと思います。むしろ、もっと人員を増やしてもいいのではないのでしょうか。	いつも大変お世話になっております。編集委員の先生方のご負担はいかばかりか、いつも申し訳なく、胸を痛めています。今回の改革によって、投稿者にとっても編集委員の皆様にとってもWin-Winになることを願っております。	研究職（任期なし）
2/14/2024 12:25:09	年4回（1月末、4月末、7月末、10月末）には いいと思います	14名から26名へは いいと思います。	副委員長を1名から2名へは いいと思います。	ないです。	学校教員
2/14/2024 12:51:40	年4回もしくは3回でいいと思います。	ご提案に賛成です。再審査の迅速化はとても重要なことだと思います。	賛成します。	大変内容が充実している機関誌であると思い、多くの学びのある機関誌かと思えます。	研究職（任期あり）
2/14/2024 13:54:27	提出する締め切りと、採択された場合の掲載号の対応が分かりやすくなるため、投稿者にとってはメリットが大きいです。	賛成いたします。『教育学研究』の場合、仮に1度不採択になったとしても、次回の投稿締め切りが他の教育学関連学会誌よりも遥かに近いので、問題ないように思います。		①先日お送りいただいた号のあとがきにもございましたが、投稿フォーマットをもう少し一般的な文書のスタイルに近づけていただけると、準備にあたっての負担が軽減されるように思います。②今回の変更について、投稿済で再投稿の判定を受けている原稿に関する措置も付記していただくと有り難く存じます。	大学院生
2/14/2024 17:40:45	提案に賛成します。	提案に賛成します。	提案に賛成します。	委員の先生方の負担を減らす方向での改革に賛成します。	研究職（任期なし）

タイムスタンプ	1. 【提案1（投稿締切4回化）】についてご意見が おありでしたら、以下の欄に記入してください。	2. 【提案2（再々投稿の廃止、再審査の迅速化）】について ご意見がおありでしたら、以下の欄に記入してください。	3. 【提案3（副委員長および委員の増員）】についてご意見 がおありでしたら、以下の欄に記入してください。	4. 上記の【提案1～3】以外の点で、機関誌についてご意見がおありでしたら、以下の欄 に記入してください。	5. あなたは現在、以下のうち のどれに当てはまりますか。当 てはまるもの1つを選んでくだ さい。
2/14/2024 21:46:49	基本的には賛成です。	①同じ論文は同じ査読委員が審査を継続するよう にしてほしいです。再投稿の審査時に新しい査読委 員になってしまうと、以前の審査委員による修正・ 改稿との連続性が取れなくなってしまうように思い ます。 ②「再審査」で不採択になり、次に投稿する際の マニュアル（指針）を事前に作っておく必要はない でしょうか。似たようなデータや資料を用いること になるはずなので、論文タイトルや論構成は以前と は変える（のか？）、不採択コメントをどのように 活用したか、など。	賛成です。いつも大変なお仕事をありがとうございます。 ます。	私の経験ですが、教育学会の査読コメントは大変勉強になりました。他の 若手にとってもそうだと思います。査読は、単に論文掲載ということだけ でなく、学会を通じた（顔の見えない）指導・助言であり、研究を育てる ことなのだと思います。そのことをどうか念頭に置いていただけたら幸い です。	専業非常勤
2/15/2024 11:47:10	賛成です	賛成です	賛成です		研究職（任期あり）
2/15/2024 13:22:52			負担の分散につながるので当面の措置としては良い と思います。今後、専任エディターの配置（外注で きる部分を切り出す）等もご検討ください。	投稿管理システム（Editorial Manager等）の導入をご検討ください。 投稿側も査読側もメールでのやりとりは非常にコストとリスクを抱えてし まいます。某学会では上記システムを導入し、次号より稼働する予定です 。ただ、費用がかさむため、システムの販売企業に対して、日本教育学会 が共同調達をもちかけることも一案だと思います。教育学を代表する日本 教育学会がリーダーシップをとり、関連学会の編集業務の効率化（働き方 改革）を支援することは日本教育学会の設置目的にも間接的には合致する のではと思います。	研究職（任期なし）
2/15/2024 18:21:57				京都大学松下佳代先生にjumping individualityを見出されてミレニアム賞 4連覇を決めた子がいる。jumping individuality は誰もが持ちそれを真正評価者に見出されて伸びていくものである。その 理論を初めて実践した先のミレニアム賞4連覇を決めた子に対して自ら実 践された京都大学松下佳代先生にノーベル賞を受賞させることがこの意味 で必要である。	フリー
2/15/2024 21:22:48	賛成です。投稿者にとっては投稿機会が多い に越したことはありませんが、査読者の負担 軽減を優先し、査読・編集委員会の持続可能 性を確保することが大切だと思います。年 に4回投稿機会があれば十分だと思います。	賛成です。	賛成です。日本教育学会という大きな学会で、編集 委員が14名というのはやや少ないようにも感じま した。	現状、査読は編集委員2名、外部査読委員1名の合計3名で査読を行うとい うことですが、2名で査読をしている学会もあることを考えると、合計2名で 査読にあたるという可能性も検討してもよいのかなと思いました。論文の 質を保障するためには、もちろん人数の多い3名の方が望ましいですが、編 集委員の先生方の多忙さ・負担と天秤にかけると、合計2名で査読にあたる （評価が割れた場合にはもう1名の査読者をお願いする）というやり方も あるかもしれないと考えました。採択率を低下させず、かつ掲載論文の水準 を維持・向上するという目標とのバランスが難しいかと思いますが、学会 の持続可能性・編集委員の先生方の負担軽減に向けた改革というのは基本 的に賛成したいと思っています。	研究職（任期なし）
2/16/2024 9:49:37					学校教員
2/16/2024 15:51:34	賛同します。	賛同します。再審査の査読コメントについては、投 稿者が短期間で修正しやすいよう、「具体的にどの ような修正作業が必要かを明確に指摘する」などを 盛り込んだ「再審査の手引き」を定めた方がよい。	賛同します。	論文・研究ノートの投稿者は、専門性・公正性の見地からみて望ましくな い査読者（「希望しない査読者」）の名前も挙げられるようにした方がよ い。	研究職（任期なし）
2/16/2024 23:53:06	提案に賛成します。	提案に賛成します。	提案に賛成します。		研究職（任期なし）
2/18/2024 1:07:12	基本的に異論はありません。編集委員の肩の 負担を軽減する意味でも必要な対策である と思います。	基本的に異論はありません。	教育学研究の分野では、専門分化や蝸壺化も見られ ますので、改めて総合的・包括的な研究としての教 育学研究を模索する意味でも大切なことかと思いま す。	機関誌については、例えば、日本教育法学会年報や日本教育行政学会年報 、日本教育経営学会紀要など、一般的な書籍としてAmazonや各種書店で入 手できるようにしてほしいです。	独立研究者(教育法学・教 育行政学)
2/18/2024 5:12:16	編集委員会の負担に鑑み、致し方ないと思 います。	再審査という制度が従来の再査読とどう違うのかよ くわかりませんでした。	オンライン会議で旅費の問題が解消されており、増 員はありだと思います。	お疲れ様です。	研究職（任期なし）

タイムスタンプ	1. 【提案1（投稿締切4回化）】についてご意見が おありでしたら、以下の欄に記入してください。	2. 【提案2（再々投稿の廃止、再審査の迅速化）】について ご意見がございましたら、以下の欄に記入してください。	3. 【提案3（副委員長および委員の増員）】についてご意見 がございましたら、以下の欄に記入してください。	4. 上記の【提案1～3】以外の点で、機関誌についてご意見がございましたら、以下の欄 に記入してください。	5. あなたは現在、以下のうち のどれに当てはまりますか。当 てはまるもの1つを選んでくだ さい。
2/18/2024 10:06:32	こちらの件、提案3が通るのであれば、「〇年6回の投稿締切・査読・編集委員会開催により、編集委員会と事務局が継続的にきわめて多忙な状況にあり、維持可能性が危ぶまれる。」という状況に変化が生まれる可能性があるのではないかと思います。。提案3が通らなかったのであれば、4回化とし、提案3が通ったのであれば、一旦様子をみて6回を継続してみてもよいのではないかと思います。				大学院生
2/19/2024 3:25:12	変更については賛成できる。査読期間について、現在は約3か月となっているが、これは変更されるのが気になる。	提案の理由・目的に関しては賛成できる。ただしこの場合、論文に対する審査基準はどのように変化するか、あるいはしないのかについての説明が欲しい。（これまではある程度大幅な修正を要するものであっても意義が見込まれば「再投稿」に区分していた論文が、今後はそれなりに迅速な修正が不可能であると見込まれるものについては「不採択」となる場合があるのか、など）			大学院生
2/19/2024 14:27:21	2(2)「投稿した論文がどの号に掲載されるかが不明確であり、また巻号により掲載論文数に多寡が生じる」という課題は、「編集委員会/学会運営にとって」の課題ということでしょうか。会員にとってはこれらはそこまで課題だとは感じられなかったので、提案1を行う理由としては少し弱いように感じました（査読が長引くことを織り込み済みなので、どの号に掲載されるかという点をそこまで気にしていないのでは）。査読体制の持続可能性確保の必要性は十分理解しており、提案1に対して反対するわけではありませんが、この点がどの程度重大なのかは補足があってもいいように思います。	査読の長期化は若手のキャリア計画上也大きな課題となっているので、賛成します。提案1（投稿締切の減少）は端的に会員にとっては不利益と映るので、それを提案2（査読長期化の防止）が十分にカバーできるものであるということを丁寧にアピールすることが必要だと思います。			研究職（任期あり）
2/19/2024 15:01:41	編集委員の負担が軽減するのであれば、よいと思います。	編集委員の負担が軽減するのであればよいと思いますが、再審査の迅速化によって、査読の丁寧さが失われないことを強く願っています。	増員自体はよいと考えます。一方で、（任期2年で）26名体制で行う際の編集委員の質を考えると、12名の増員が妥当であるかについては再考の余地があるように思います。編集委員の業績の基準はどこにあるのでしょうか。基本的には十分な業績がある方が編集委員になっているとは思いますが、時折、疑問を抱かざるをえない業績の方もお見受けします（『教育学研究』『ESJ』いずれも）。『教育学研究』に（自由）投稿して掲載されるような研究能力がある方に査読されたいというのが投稿する側の率直な考えです。	数年前の機関紙改革で導入された、外部査読者の希望（2名）については、ぜひ継続してほしいです。編集委員についても希望を出せるとなるとよいと思います。編集委員の布陣に関して、共同研究を行っているなど、極めて近いグループの方々と同じ時期に編集委員になっているのは、偏りや公平性という点から問題であると考えます。	研究職（任期なし）
2/19/2024 16:09:20	賛成	賛成	賛成		研究職（任期あり）

タイムスタンプ	1. 【提案1（投稿締切4回化）】についてご意見が おありでしたら、以下の欄に記入してください。	2. 【提案2（再々投稿の廃止、再審査の迅速化）】について ご意見がございましたら、以下の欄に記入してください。	3. 【提案3（副委員長および委員の増員）】についてご意見 がございましたら、以下の欄に記入してください。	4. 上記の【提案1～3】以外の点で、機関誌についてご意見がございましたら、以下の欄 に記入してください。	5. あなたは現在、以下のうち のどれに当てはまりますか。当 てはまるもの1つを選んでくだ さい。
2/21/2024 5:37:14				真正評価論の最高位として評価が何年も遅れる事態についてその教授が当該分野のことを全く知らない限り考えにくいことを宣言する。従って評価が著しく遅い東京大学の教授陣は教授と呼ぶには無能過ぎるという結論となるがこの意味で証明出来る。ミレニアム賞4連覇が決まっている子に対して大学院受験から14年程度評価をつけていない実態は真正評価論の最高位としては当該組織解体の必要性を示唆するものである。大学に全分野の教授を置きたい という野望がある大学もあるようだがある分野では最高位以外全員が危険なものを選ぼうとするなど惨憺たる結果であるため京都大学では真の天才だけをその代わりに採算の合う限り何人でも教授とすることがこの意味で必要である。	フリー
2/21/2024 11:20:32	機関誌の刊行月に合わせて、投稿締切・査読の日程を調整するのは合理的なご提案だと思います。	再々投稿は廃止していただいてもいいと思うのですが、再審査をしてもらうための再投稿論文の受付期間については、たとえば次号以降のタイミングに合わせるといった柔軟性を残していただけようお願いします。当初、掲載を目指していた号に掲載されることを前提に改稿を求めると、相当、改稿期間が短くなってしまうのではないかと懸念しています。修正要求が出されてから、慌てて改稿するよりも、たとえば2-4か月かけてじっくり改稿して、完成度の高いものを提出しなおし、再審査を受けるという選択肢も認めていただく方が、投稿側・査読側の双方にメリットがあるように思いますし、学会誌の充実も図れると考えます。	以前、編集委員を担当したのとして、現状の投稿数をこなすのが極めて苦しかったことを実感しておりますので、副委員長・委員の増員には大賛成です。一方で、編集委員が増えると、集まって議論する編集委員会の開催が難しいのではないかとこの点が気になりました。	大きなご負担がかかる中、機関誌を支えてくださっている編集委員会の先生方に心より感謝申し上げます。	研究職（任期なし）
2/21/2024 18:56:50	編集委員をほぼ倍にまで増やすのだから、締切の回数は6回を維持しながら、よりクオリティの高い査読を目指すべきである。他の学会誌より投稿締切の回数が多いところが最大の特徴であるのに、4回にするとその良さが半減してしまう。	再審査の迅速な体制は是非とも導入すべきだが、その迅速さと査読の正確さが果たして両立されるのか、より具体的な体制の案を提示していただかないと判断に困る。また、仮に再審査の体制がうまく運用できたとしても、その再審査においても軽微な修正が必要だと判断された場合（採否に迷う場合）が発生することは免れ得ず、再々投稿を廃止すべきではない。	賛成するが、26人という人数に決定した理由を明示してください。		大学院生
2/21/2024 22:37:37	投稿締め切りは多いほうがありがたいです。そもそも採択率が低いと思うので、締め切りと刊行の回数を同じにしてもあまり意味はないと思います。むしろ締め切りをなくして随時投稿可能にして採択が決まったものを次の号に載せていくというような、国際ジャーナルのような運用がなされると投稿がしやすいです。	再審査が迅速化されるのはとてもよいことだと思います。編集委員会のみなさん、および査読を依頼された側のみなさんがご負担のない範囲で、投稿者にも益ある仕方であっていただくことを望みます。			学校教員

タイムスタンプ	1. 【提案1（投稿締切4回化）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	2. 【提案2（再々投稿の廃止、再審査の迅速化）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	3. 【提案3（副委員長および委員の増員）】についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	4. 上記の【提案1～3】以外の点で、機関誌についてご意見がありましたら、以下の欄に記入してください。	5. あなたは現在、以下のうちのどれに当てはまりますか。当てはまるもの1つを選んでください。
2/22/2024 11:15:06				いつも多くのお世話をいただきありがとうございます。以下、コンプライアンスという言葉がしばしば出される今日においては特に、必要な検討事項であると思います。＜査読等の編集規程加えて頂きたい規程2点＞：①：「投稿者は査読結果に異議がある時、編集委員会に書面による反論を申し述べることができる。それに対し、編集委員会は書面により回答する」。②：2名（3名）による査読結果は、両者を編集委員会が編集せず、2名（3名）の書面をそのまま別々に被査読者に提示する。その上で、編集委員会は総合コメントを被査読者に提示する。以上①②の提案の理由は以下の通りです。心理学系や教科教育系の学会で多く採用されているその規程は、本学会をはじめ教育学系の学会では旧態依然として無いと思います。その規程は、査読者にはほぼ間違いはないとか、査読者の方が学力が高いという前提に立たない点で、言い換えれば、査読者に投稿論文の理解が不十分であったり誤読があったりしても、それは許されてしまうという問題点を取り除く点で、本学会にも不可欠であると思います。その制度は、査読者と被査読者との関係が権力的関係にならないために、すなわち、査読者の説明不十分等があって「否」とされても非査読者は黙っておかなければならないという非民主的な事態にならないために、設ける必要があると思います。以上、時代的にも必要な規程であると思います。ご検討よろしくお願いたします。	研究職（任期あり）
2/22/2024 13:55:54	賛成です。	賛成です。	速やかに実現するのが望ましいです。	投稿の際のフォームが面倒だったのですが、投稿原稿テンプレートができましたので、特にありません。	研究職（任期なし）
2/22/2024 16:44:47	若手研究者（とりわけ大学院生）の就職状況等を考慮したとき、投稿機会が6度用意されていることは重要な意味を持つように思われます。提案3と関わって、対応できる数の編集委員を増員すれば良いのではないのでしょうか。				研究職（任期なし）
2/23/2024 10:28:58				教育系にもミレニアム賞問題のような1億円程度の賞金をかけた懸賞金問題を創設してほしい。受賞したものを教育実務で畏に付けるものもいるがその完全回避方法にも賞金をかけるなどすることがこの意味で必要十分である。	フリー
2/23/2024 17:00:12		再々投稿を廃止した場合、掲載の水準にみえない論文が増え、掲載率がかなり落ちるのではないかと危惧します。再々投稿にあたるものは必要だと考えます。			研究職（任期なし）
2/26/2024 0:06:45	年4回に減らす意義が掴みませんでした。いつでも投稿可能な雑誌がある以上、奇数月末から年4回に減らしても機会を維持しているとは言い難いと思います。ただし、4回とする場合の月の選択については賛成です。	再審査の迅速化はありがたいです。提案1と2は連動したものでしょうか？			大学院生

タイムスタンプ	1. 【提案1（投稿締め切り4回）】についてご意見が おありでしたら、以下の欄に記入してください。	2. 【提案2（再々投稿の廃止、再審査の迅速化）】について ご意見がおありでしたら、以下の欄に記入してください。	3. 【提案3（副委員長および委員の増員）】についてご意見 がおありでしたら、以下の欄に記入してください。	4. 上記の【提案1～3】以外の点で、機関誌についてご意見がおありでしたら、以下の欄 に記入してください。	5. あなたは現在、以下のうち のどれに当てはまりますか。当 てはまるもの1つを選んでくだ さい。
2/26/2024 14:49:59	問題ないと思う。	問題ないと思う。論文に投稿して「研究ノートなら採択する」のようなもの、がない・なくなる（これまであった？が、今後はない？）という理解でよいでしょうか。	副委員長増員については問題ないと思う。委員の増員は査読の質の低下につながる（何かの仕組みが必要なのか）。（会員の民意が反映されている）地方理事から委員を4名程度入れるのが現実的かと思う。一般論として、指導院生を多数抱えている主要大学の研究者は、編集委員に入れるのは好ましくないと思う。	今後、特集についての依頼はしなくてよいと思う。依頼なしの特集企画（模索と挑戦以外）を読みたい。20年前後前の特集依頼（推定）論文のいくつか、教育研究の現在の1つ、については、なぜ掲載・依頼されたか疑問を持っているというのが正直なところである（価値観の違いであればやむを得ないが）。機関誌（査読論文）が学会にとって最も重要だと考える。他の委員会に、査読を担うべき有力な中堅研究者がいるように思われるのは気になっている。編集委員があまりに増えるならば、編集委員から1名（2名？）指名の希望を伝えるような仕組みにしてほしい。外部査読希望2名については今後も継続してほしい。論文投稿は年1回までとかにすると、査読本数は減るのでしょうか。特集テーマを早めにHPで公開すれば、普通に（早めに）投稿するか、少し後の特集に投稿するか選べるのでしょうか。特集を企画した人たち（編集委員のこの人たちが企画した・優先的に査読する？）がわかると、投稿の意欲が出る（もしくはあえて避ける）などがあるかもしれません。	研究職（任期なし）
2/26/2024 23:55:22	①確かに年4回でも「十分に投稿機会を保障している」とは言えるが、年2回分投稿機会が減ることに変わりはない。主観ではあるが、年2回分投稿機会が減るといふ会員の被る不利益に対し、提案2(、及び提案3)はそれに見合う(釣り合う)利益とは思えない。さらなる何らかの譲歩があってもよいのではないかと考える。 ②新たな投稿〆切のうち、1月末、7月末は元来からあった期日であるが、4月末、10月末は新たに設けられる期日である(偶数月末)。他の学会誌の投稿〆切との兼ね合いは考慮されたのか。見かけ上6回→4回への2回減であっても、実態として分野によっては4回のうち1～2回が自身の分野の学会誌の〆切と重なることもありうるため、会員によっては事実上3回減(あるいは4回減)となる会員もいるかもしれない。	審査の迅速化について、特に異存はないが、他の学会でも見られるような評点開示制度を設けてほしい。「採択」された場合でも、「不採択」であった場合でも、自身の論文に対して審査の過程で何点の評点がつけられたのか審査終了後に開示してほしい。これは(現状不透明にも思える)審査の過程を透明化するために必要な措置と思われる。	①編集委員数の増減について、特に異存はないが、1セット(投稿から「再審査」を経て「採択」あるいは「不採択」まで)の審査の過程で担当する編集委員が度々交代するような事態は避けてほしい。できるならば、1セットの審査の過程で同じ編集委員が責任をもって審査を担当し続けてほしい。これは編集委員の交代によって審査の基準がぶれることを防ぐために必要な措置と思われる。 ②編集委員長(あるいは会長)の交代によって端的に言えば採択率が大幅に上下することは望ましくない。編集委員長(あるいは会長)の方針という属人的な要素を排する審査の体制を構築してほしい。		大学院生